

自分にとって無関係なものはない 他者を見つめ世界を知る

福岡大手門のEUREKAで第23回写真「1_WALL」グランプリ、第1回ふげん社写真賞グランプリを受賞された木原千裕さんの展覧会が開催されるとの情報を頂き、木原さんの写真から被写体との距離感に魅力を感じ、取材をさせて頂いた。

木原さんは福岡生まれ。写真との出会いは大学3回生の頃、元々写真展等はよく観に行っていた木原さんが自分でも撮影してみたいと思い、趣味として始めた。フィルム一眼での撮影は最初うまく撮影できなかったけれど、もっと上手く撮りたいと思ってのめり込んでいったという。

同志社大学の社会学部教育文化学科に通っていた木原さん。最初は教師になろうと思って勉学に励んできた。しかし一度教師の道を選ぶと性格上別の仕事は何もできなくなってしまうと考え、写真家という道は簡単に進むことができないからこそ挑戦してみたいという思いから一念発起。卒業間近で就職先も決まっていな中、知り合いにフォトグラファーを紹介してもらいプロの現場を経験させてもらうようになった。

その後、様々な現場で経験を積み、自身の作品を撮影し続け、恋人の僧侶と取り巻く環境や関係から、信仰や救いについての問いも投げかけた作品「Circuit」は第23回写真「1_WALL」でグランプリに選ばれた。

木原さんは作品「それは、愛？」で世に出した恋人との写真について、宗教というものから拒絶されたことで「彼女との関係が社会の中で否定されるべき行動とは思いたくなかった。だからこそ、本来世に出すつもりはなかった恋人とのプライベートな写真を出すことでその関係を肯定したかった」と話してくれた。

しかし、恋人との親密な距離感の写真が評価されたことで、自分の作品に内包している「自分と世界との関係性」について受け取ってもらえているのか疑問に感じる事となった。親密ではない他者との関係の方が世界と自分との関係性をより現しているのではないかと、今回の展覧会作品である「いくつかある光の」を制作したと話してくれた。

「いくつかある光の」では偶然出会った石巻在住の女性を被写体として撮影した。恋人や友達という程近くもない、自分の写真展で偶然出会った人。その関係性で撮影することで自分と他者との関係性をとらえたかったという。出発点は個人的だけれども「自分と他者」という問いは全ての人に共通する普遍的・社会的な問いかけでもあると話す。

木原さんにとって全てのものごとは良いも悪いも関係なく互に関わり合いながら存在しているという「縁起」の関係性を纏っていると話す。そして自分の目の前に存在するものとの出会いを見つめ、自分が傷ついた出来事をどう消化していくのか考えたときに、自分には写真があって良かったと思うと話してくれた。

全ての人にとっての「出会い」があり、世界は「縁」で繋がっていく。木原さんは今日も縁起を結び、世界を写し撮っているのだろう。



文 村上博史



Profile

木原千裕 Chihiro Kihara

1985年福岡県生まれ / 同志社大学社会学部教育文化学科卒業

(個展) 2022「Wonderful Circuit」(ガーディアン・ガーデン / 東京)
2022「いくつかある光の」(ふげん社/東京)
2017「それは、愛?」(Alt_Medium / 東京)
2017「それは、愛?」(ALBUS / 福岡)

(グループ展) 2021 第23回写真「1_WALL」展 (ガーディアン・ガーデン / 東京)

(受賞歴) 2021 第1回ふげん社写真賞 グランプリ
2021 第23回写真「1_WALL」グランプリ
2018 塩竈フォトフェスティバル写真賞 特別賞



福岡市美術館

福岡市中央区大濠公園1-6
092(714)9095

開館時間/9時30分~17時30分(入館17時迄 ※7、10月の金・土曜日は20時まで開館入館は19時30分迄)
休館日/月曜日(祝日の場合はその翌日)

●第62回西日本フォトコンテスト入賞作品展
7月5日(火)~7月10日(日)「ギャラリーE」写真約110点を展示

●親子3人展
8月16日(火)~8月21日(日)「ギャラリーB+C」全紙へ全倍サイズの写真を展示

●塩島亮太展
8月22日(火)~8月27日(日)「ギャラリーE」油絵、アクリル絵画、写真等約200点を展示

●「空間」写真展
8月23日(火)~8月28日(日)「ギャラリーE」写真A3/ビ主体で約60点を展示

●第52回青像グループ写真展
8月30日(火)~9月4日(日)「ギャラリーA」写真約45点を展示

●第7回写人シャツウクトロ写真展
7月18日(月)~24日(日)「ZFMスペースシオエ」10時~18時(初日12時~最終日16時まで)

アクロス福岡

福岡市中央区天神1丁目1番1号
092(725)9100

営業時間/10時~18時
休館日/期間中無休



掲載中の写真展は状況により変更となる場合がございます。
「よめ」へお越ください。

WALD ART STUDIO

福岡市博多区千代4-12-2
092(933)3888

営業時間/12時~18時 入館無料
休館日/日・月・火

●7月6日(水)~7月23日(土)白と黒で表現される写真の深み、濃さ、淡さ。作家それぞれの現代における写真文化の在り方を再度問いかけ、再構築していく写真展。



●「ニューヨーク黒田の世界」
7月5日(火)~7月18日(月) ニューヨークの歴史的建造物や文化を黒白写真で表現することで、時空を超越した感性に浸ってほしいと思ひ作品にしました。※入場無料

貴賓館

福岡市中央区西洲4-29
092(755)4416

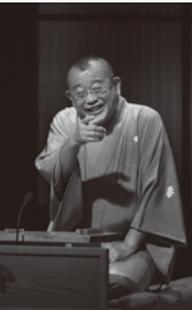
営業時間/9時~18時 最終入館17時50分迄
休館日/月曜 ※月曜が祭日の時は翌日

●笑福亭鶴瓶17年の観察記「ウラとオモテと本面の顔」
7月21日(木)~7月26日(火)「交流ギャラリー」

福岡アジア美術館

福岡市博多区下川端町3-1
リパレンセンビル7-8階
092(626)1100

営業時間/9時30分~18時
※金・土曜日は20時迄 ※入室は閉室30分前迄
休館日/水曜日(休日の場合はその翌平日)



●フォトガイドふくおか 提携ギャラリー
写真展利用者募集中！
ご利用をご希望の方は「フォトガイドふくおか発行運営委員会」までお問い合わせください。

周南市美術博物館

山口県周南市花屋町10-16
093(422)0000

開館時間/9時30分~17時入館は16時30分迄
休館日/月曜日(休日・祝日の場合はその翌日) <http://bunkai.jp/bhaku/>

●林彦記記念室「常設」
●時代を撮る「カストリ時代」より
開催中~7月18日(月)迄

●時代を撮る「カストリ時代」より
7月20日(水)~10月23日(日)



輪タク全盛時代(上野)
■観覧料
一般200円(160円)
大学生等100円(80円)
※()内は団体20名以上
※企画展観覧券で常設を併せてご覧いただけます。

ギャラリー風

福岡市中央区天神2-8-136 新大町北通り
092(711)5101

開館時間/11時~18時30分(最終日17時迄)

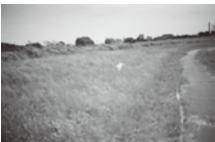
●第5回野田博生写真展「80都市の路面電車」
8月22日(月)~8月28日(日) 今も路面電車の走る街、札幌、函館、岡山、広島、高知、松山、長崎、熊本で撮影した写真10年分。

カフェ&ギャラリーキューブリック

福岡市東区箱崎1-5-14
ブックスキューブリック箱崎店 2F
092(645)0000

営業時間/10時~17時(土日祝18時まで)
定休日/月・火(海の日日は営業)

●風をこぐ 橋本貴雄写真展
7月6日(水)~24日(日) 2005年、福岡の路上で撮られていたことを保護し共に生きた愛犬フウの12年間記録。橋本さんは写真新世紀「〇二年度在住作家」受賞。6日(土)「ライオン」。



LIBRIS KOBACO

福岡市中央区大手1-3-2 26 401
090(696)6010

開館時間/13時~18時
店休日・火曜水曜(祝日はオープン)

●LIBRIS KOBACO 山元彩香写真展
三周年記念展示
「We are Made of Grass, Soil, Trees, and Flowers」
7月29日(土)~9月4日(日)

●海凜房コレクション展vol.13「人を撮る」
7月3日(日)~8月27日(土) 様々なシーンで撮影されたチクロフィルムやデジタルカメラの人物100数点を展示

海凜房

福岡市西区今津03-3
092(401)0267

開館時間/（金）火12時~18時 水木定休
※(株)エターナルラボプリント取次店/写真展、写真の販売をご希望の方へご連絡ください

表紙の展示『陽炎、稲妻、水の月』

豊永茜/1995年生まれ。九州産業大学芸術学部写真・映像学科写真専攻卒業。ヒトや建造物の見えない面、うつろいゆく肖像に着目し、「在る」ものをわざと隠して観測させないことで人々に想像力を働かせることを促す作品を制作している。

発行/フォトガイドふくおか発行運営委員会

〒812-0025 福岡市博多区店屋町4-8 蝶とビル205
☎090-3197-2211 info@photoguide.fun
□デザイン …… 神谷風花 □代表・編集長 …村上博史
□印刷 …… 株式会社伸和

※9・10月号の情報・広告のお申込みは
7月18日(月)~25日(月)までにご連絡ください

